

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	北九州市立祝町小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数 12
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	
児童数	36	23	36	38	27	38	0	198	

・研究の概要

1. 研究主題

個を生かし、確かな学力の向上を目指す教育の創造

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・5～6年生 算数科
児童の理解の状況に差が生じやすい教科であり、教師の専門性を生かすこともできるため。

・5～6年生 社会科
観察や調査・見学、体験などの具体的な活動を通して、児童の問題解決の力を育むことができる教科であり、教師の専門性を生かすこともできるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度
 テーマ 個を生かし、確かな学力の向上を目指す教育の創造
 ～教科担任制の導入と課題意識を大切にした授業づくりを通して～
 研究の見通し(仮説)
 教師の得意科目を生かした教科担任制を導入し、評価規準の作成と活用を通して指導の焦点化を図り、児童一人一人の課題意識を大切にした授業づくりを行えば、児童一人一人に確かな学力が身に付くだろう。
 研究内容・方法
 (1)教師の得意科目を生かした教科担任制を導入(社会科, 算数科, 理科等)
 (2)評価規準の作成と活用を通して指導の焦点化
 (3)児童一人一人の課題意識を大切にした授業づくり

平成15年度
 テーマ 個を生かし、確かな学力の向上を目指す教育の創造
 ～指導体制の工夫と個に応じたきめ細かな指導を通して～
 研究の見通し(仮説)
 教師の得意教科を生かした教科担任制を一部導入したり、少人数指導のより一層の充実に努めたりするなど、指導体制を工夫・改善すれば、授業の質を高めることができるだろう。
 各教科の学習において、児童の学力の評価を生かした指導の改善を行うとともに、補充的な学習や発展的な学習などの、個に応じたきめ細かな指導の充実に努めれば、児童一人一人に、確かな学力が身に付くだろう。
 研究内容・方法
 (1)「教師の得意教科を生かした教科担任制」の導入(社会科, 算数科等)
 (2)習熟度別グループによる学習の充実に目指す少人数指導の推進
 (3)児童の学力の評価を生かした指導の改善
 (4)補充的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の充実

平成 16 年 度	テーマ 個を生かし，確かな学力の向上を目指す教育の創造 研究の見通し（仮説）
	教師の得意教科を生かした教科担任制や少人数指導の充実に努めるなど，指導 体制を工夫・改善し，授業の質を高める。
	各教科の学習において，発展的な学習を中心に個に応じたきめ細かな指導の充 実を図るとともに，生活科や総合的な学習の時間との相互連携に努め，児童一人 一人に，確かな学力を身に付ける。
	研究内容・方法 (1)発展的な学習の更なる充実 (2)各教科の学習と総合的な学習の時間の相互連携を視野に入れた研究推進 (3)研究成果のまとめと発表

(3)研究体制

推進委員会と全体部会で構成し、基本的には各自の専門教科で研修を進めていく。		
<table border="1"> <tr> <td>研究推進委員会 校長，教頭，教務，研究主任，低学年代表，高学年代表</td> </tr> </table>		研究推進委員会 校長，教頭，教務，研究主任，低学年代表，高学年代表
研究推進委員会 校長，教頭，教務，研究主任，低学年代表，高学年代表		
教育課程研究部		
<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制の推進（時間割等の作成や調整など） ・スキルタイムの企画運営 ・地域の関係団体との連携，調整や地域の教育資源の情報収集 		
評価研究部		
<ul style="list-style-type: none"> ・評価規準の作成 ・児童の学力の評価を生かした指導の改善 (診断的評価・形成的評価・総括的評価・自己評価) 		
授業研究部		
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の充実（習熟度別グループによる学習） ・補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導の充実，そのための教材開発 		

・平成 15 年度の成果及び課題

1. 研究の成果

(1) 児童の意識調査より（実施日：平成 15 年 12 月 4 日）					
少人数指導（全学年）					
項目（％）	たいへん	まあまあ	半分	あまり	まったく
勉強が分かりやすい	53.8	35.9	6.2	3.1	1.0
教科担任制（5・6年）					
項目（％）	たいへん	まあまあ	半分	あまり	まったく
勉強が分かりやすい	24.2	61.3	9.7	4.8	0
「勉強が分かりやすい」と答えた児童は，少人数指導においては 89.7％，教科担任制においては 85.5％と高い評価であった。少人数指導や教科担任制がともに「確かな学力の向上」につながった。					
(2) 児童の学力検査の結果より					
5・6年生の同一児童による，算数科の2年間の「教科総合」評価結果の比較					

a 5年生			
%	十分満足	おおむね満足	努力を要する
平成14年度(4年生)	65	27	8
平成15年度(5年生)	52	41	7
b 6年生			
%	十分満足	おおむね満足	努力を要する
平成14年度(5年生)	42	30	28
平成15年度(6年生)	45	39	16

「努力を要する」と判断される児童の割合は減少の傾向にあり、児童一人一人に「確かな学力」が身に付いてきていることが分かる。しかし、「十分満足」と判断される児童の割合も減少の傾向が見られる。個に応じたきめ細かな指導が十分でないことが分かる。補充的な学習の成果はあるが、発展的な学習においては、更なる研究が必要である。

2. 今後の課題

- (1) 専門的な指導力が発揮できる音楽科，図画工作科，家庭科，体育科においては更に教科担任制の取組を考えていきたい。
- (2) 補充的な学習や発展的な学習の内容については，算数科・理科を除いてまだ明確ではない。今後も研究が必要である。特に，学力検査の結果からも分かるように，発展的な学習に重点をおいて取り組みたい。
- (3) 総合的な学習の時間の充実も視野に入れ研究推進に取り組みたい。

. 学力把握のための学校としての取組

- (1) 学力検査により，各教科における児童の実態を把握し，重点目標を設定する。
- (2) 児童の実態に応じたきめ細かな指導を行うよう工夫・改善する。
- (3) 研究の節々において，児童，保護者，職員に学力向上の取組に関する意識調査を行い，研究推進に役立てる。
- (4) 新年度に学力検査を行い，その結果を基に学力分析を行い，成果と課題を明らかにし，今後の研究の改善を図る。

. フロントアスクールとしての研究成果の普及

平成14年10月31日(木)に学力向上フロントアスクール実践交流会を開催。
 平成15年7月2日(水)に学力向上フロントアスクール実践交流会を開催。
 平成16年10月21日(木)に学力向上フロントアスクール実践交流会を開催予定。
 研究成果普及のためHPを作成。更に，普及活動として他校からの研修視察を受け入。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|------------|------------|------|----|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下 | 7～12学級 | | |
| | 13～18学級 | 19～24学級 | | |
| | 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 | T・Tによる指導 | | |
| | 一部教科担任制 | その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | 算数 | 理科 |
| | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 |
| | 体育 | その他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | 有 | 無 | |